

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：15401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530187

研究課題名(和文) アフリカの「国家の失敗」をめぐるセキュリティ・ガバナンスの構築に関する研究

研究課題名(英文) Research for Security Governance on State Failure Issues in Africa

研究代表者

山根 達郎 (Yamane, Tatsuo)

広島大学・国際協力研究科・准教授

研究者番号：90420512

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、紛争が絶えず、「国家の失敗」と見られる傾向にある西アフリカ地域に着目し、セキュリティ・ガバナンスという新しい分析アプローチを用いて、同地域の地域機構と市民社会組織とが協働で形成する紛争予防・早期警戒システムの特色を明らかにした。このことは、新しく紛争後地域を対象に同アプローチを適用し、分析概念の再検討を実施した意味においても新しい成果が見出せたと言える。

研究成果の概要(英文)：This research focused on the West African region where has the conflict's situations link to the state failure issues inside, and examined a characteristics of a system for conflict prevention and early warning which is formulated by the interaction between the regional organization and civil society in the region. This analysis also made a new perspective on the re-examination for the theoretical approach by expanding to the new area of post-conflict situations.

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・国際関係論

キーワード：セキュリティ・ガバナンス 紛争予防 平和構築 国家の失敗 アフリカ 安全保障 非国家主体

## 1. 研究開始当初の背景

本件代表者はこれまでに、「DDR」(武力紛争後の元戦闘員の武装解除(disarmament)・動員解除(demobilization)・再統合(reintegration))に関する研究を皮切りに(科学研究費若手研究B [平成18~19年度])、その後DDRの研究を踏まえて、アフリカにおける「失敗国家」化と武装集団化との連動に関する研究(科学研究費若手研究B [平成20~21年度])へ発展させてきた。

本件代表者は、「国家の失敗」と武装集団との関係性について、具体的研究を重ねることが、多発する武力紛争の構造を明らかにする上で欠かせないステップとなると考えたのである。このような研究目的に沿って、本件代表者は、これまでに、なぜ「国家の失敗」の状態が引き起こり、これと連動してどのような目的(自集団のアイデンティティ・ポリティクスの確立など)と手段(政治活動、経済活動、武装闘争など)をもって武装集団化が進むのか、前述の「国家の失敗」論や、メアリー・カルドー氏が示す「新しい戦争」論を研究手法として、主にアフリカの紛争事例について実証研究を進めてきた。

他方、こうした暴力的紛争を予防するために、アフリカ地域を対象にどのような「セキュリティ・ガバナンス」が構築されるのか、という問いについても併せて研究準備を進めてきた。アフリカ連合(AU)や西アフリカ諸国経済共同体(ECOWAS)への取材も過去に行っており、2010年9月~2011年1月には本件研究の開始のためヘルシンキ大学社会科学部(上記リサ・ラクソ氏が所属、現在学部長)にて客員研究員として在外研究を実施していた。

本件研究の着想は以上の経緯を踏まえている。

## 2. 研究の目的

本研究では、「国家の失敗」が契機となって武力紛争を招来しがちなアフリカの諸事例(とくに西アフリカ地域)に着目し、紛争終結後(ないし紛争中)の「セキュリティ・ガバナンス」の構築に向けた取り組みについて概観しつつ、こうした枠組みに対する非国家主体による関与について検討することを目的としていた。

本研究は、ヨーロッパ内部の「セキュリティ・ガバナンス」(国家主体に加え非国家主体のガバナンスへの関与を模索)研究を参照しつつ、アフリカの非国家主体がどのように「セキュリティ・ガバナンス」の実現(あるいは破壊)に関与しているのか、また、「国家の失敗」を内包する地域における「セキュリティ・ガバナンス」の新機軸とは何かといった問いに迫ろうとした。

「セキュリティ・ガバナンス」に関する研究は、主にヨーロッパ地域を対象とした安全保障研究の一部として展開されてきている

る。「セキュリティ・ガバナンス」という分析アプローチについては、2004年にReview of International Studiesに掲載されたマーク・ウェバー氏らによって発表された論文“The Governance of European Security”が代表的である。関連研究でも繰り返し引用されている同論文は、冷戦終結後に欧州連合(EU)と北大西洋条約機構(NATO)とが欧米地域の「セキュリティ・ガバナンス」をめぐって連動しつつ相互に安全保障上の役割を補完する傾向にあることを指摘しつつ、当該「ガバナンス」をめぐって国家主体のみならず非国家主体も関与する傾向について論述している。関連論文も含めて、「セキュリティ・ガバナンス」に関する議論は、カール・ドイッチュ氏によってはじめられた「セキュリティ・コミュニティ」の議論を発展させるかたちで、日国家主体の関与という新しい要素を組み込みつつ展開される傾向にある。

このような安全保障研究の萌芽的取り組みは、いまアジアやアフリカの事例研究へと広がりを見せつつある。しかしながら、ヨーロッパ地域に比べ、国際安全保障の制度が脆弱なアフリカをめぐる本件議論は、やはりほとんど見受けられないのが実状であった。

ただし、「セキュリティ・コミュニティ」論への批判的分析として、アフリカの地域主義を題材とした論文はいくつか発表されている。そのなかでもアフリカ地域をめぐる「セキュリティ・ガバナンス」に触れている研究者ではリサ・ラクソ氏が「マルチ・レベル・セキュリティ・ガバナンス」アプローチを提示するのみである(国内レベルの「セキュリティ・セクター・ガバナンス」に関する議論は別途存在する。)

他方、「国家の失敗」をいかにして修復するのかという議論も、アフリカの「セキュリティ・ガバナンス」の構築と密接な関係にあると考えられる。一般に「国家の失敗(state failure)」とは、国家の統制が不十分なために治安が著しく乱れたり、国民の福祉が国家によって提供されずに「人間の安全保障」が脅かされたりする状況のことを指す。とくに冷戦終結後の1990年代以降においては世界で内戦が多発したことから、その原因について「国家の失敗」を通じた国際政治学上の議論が展開された。国外ではウィリアム・ザートマン氏やロバート・ロトバーク氏による研究が代表的である。前者は、「国家の失敗」を植民地主義からの負の遺産ととらえ、主に「失敗」の理由について理想的な主権国家体制の限界に求めて分析しており、その「原因」究明に主軸を置いている。他方、後者は、いかにして「国家の失敗」を「修復」すべきかという政策的観点を重視する研究グループに属している。後者の観点からは、スティーブン・クラズナー氏による「(武力紛争後の国家建設の方策として)主権をシェア(Sharing Sovereignty)」するという議論と

もつながっている。

国内でも「国家の失敗」に関係する議論としては、遠藤貢氏によるアフリカをめぐる理論分析や、「国際秩序と国内秩序の共振」を研究する石田淳氏による論文などが代表的である。ただし「セキュリティ・ガバナンス」に関する研究は手つかずの状態といっても過言ではない。本研究は世界的に見ても未解決の課題に迫るものであり、以上のような「国家の失敗」と「セキュリティ・ガバナンス」の議論をつなぐ重要な課題への取り組みとつながっている。

以上の先行研究の動向を踏まえ、本件研究は実施に移された。

### 3. 研究の方法

本件研究者は、「セキュリティ・ガバナンス」に関する理論的研究の分析について在外研究先のヘルシンキ大学でとり進め、さらに西アフリカで実施されている ECOWAS 紛争予防・早期警戒システムの動向について現地調査を踏まえ、国内外の学会での報告を通じ、分析アプローチのさらなる発展のための研究を実施した。

具体的には、次のとおりである。

本件研究代表者は、国際関係論の分野で最も有名な国際研究学会の一つである International Studies Association (ISA) が開催した 2012 年研究大会 (米国・サンディエゴ) にて論文報告 (2012 年 4 月) を実施した。また 2011 年 8 月と 2012 年 8 月には、研究対象地域であるリベリアに再度訪問し、安全保障問題に関わる国連関係者、地域機関関係者、市民社会組織関係者らに取材を実施した。さらに、フィンランドのタンペレ大学平和研究所を往訪した際、関連する研究報告を実施 (2012 年 12 月) しフロアからも有益なコメントを頂戴した。その後、ケニアのナイロビにある Daystar University と、ナイロビ大学付属の Institute of Diplomacy and International Studies (IDIS) にて報告 (2013 年 10 月) さらに立命館大学人文科学研究所に招待報告 (2014 年 2 月) を実施した。

### 4. 研究成果

本件研究は、紛争が絶えず、「国家の失敗」と見られる傾向にある西アフリカ地域に着目し、「セキュリティ・ガバナンス」という新しい分析アプローチを用いて、同地域の地域機構と市民社会組織とが協働で形成する紛争予防・早期警戒システムの特色を明らかにした。このことは、新しく紛争後地域を対象に同アプローチを適用し、分析概念の再検討を実施した意味においても新しい成果が見出せたと言える。その成果として、査読付の学術雑誌における英文論文 1 本を含む雑誌論文 2 本、著書における分担執筆論文 2 本を上梓した。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 2 件)

1. Tatsuo Yamane, Securing Security Governance in Post-conflict Situation: A Framework of Conflict Prevention through ECOWARN in West African Region, Hiroshima Peace Science, 査読有, No.35, 2014, pp.1-17.

2. 山根 達郎『『国家の失敗』をめぐる セキュリティ・ガバナンスの構築 - 西アフリカ地域における非国家主体による紛争予防の事例から』『HIPEC 研究報告シリーズ (広島大学)』、査読有、No.8、2012 年 10 月 22 日、1 - 29 頁。

〔学会発表〕(計 5 件)

1. 山根 達郎「セキュリティ・ガバナンスと平和構築 西アフリカの事例から」立命館大学人文科学研究所主催ワークショップ「非西欧社会におけるセキュリティ・ガバナンスの展開と課題」、2014 年 2 月 20 日、立命館大学。

2. Tatsuo Yamane, Constructing Security Governance on State Failure: From Case on Conflict Prevention by Non-state Actor in West African Region, Institute of Diplomacy and International Studies (IDIS), 18 October 2013, University of Nairobi, Nairobi, Kenya.

3. Tatsuo Yamane, Constructing Security Governance on State Failure: From Case on Conflict Prevention by Non-state Actor in West African Region, 18 October 2013, Daystar University, (Nairobi) Nairobi, Kenya.

4. Tatsuo Yamane, Research Seminar in Tampere Peace Research Institute (TAPRI) (単独) Title: Global Governance, Liberal Peacebuilding and Transitional Justice, TAPRI, 3 December 2012, University of Tampere, Tampere, Finland.

5. Tatsuo Yamane, Constructing Security Governance in West Africa Region over State Failure (Panel Title: National Security and International Peace), International Studies Association (ISA), 53rd Annual ISA Convention, 3 April 2012, San Diego, USA.

〔図書〕(計 2 件)

1. 山根 達郎ほか、信山社、『黒澤満先生

古希記念論文集（仮）<sup>2</sup>、2014年、印刷中。

2. 吉川 元、藤田 泰昌、三上 貴教、岡部 みどり、洪 恵子、岩田 将幸、北澤 義之、首藤 もと子、湯浅 剛、澤田真治、戸田 真紀子、野宮 大志郎、武内 進一、宮坂 直史、六鹿 茂夫、齋藤 嘉臣、勝間 靖、足立 研幾、上村 雄彦、池田 まりこ、山根 達郎、望月 康恵、清水 奈名子、首藤もと子、法律文化社、『グローバル・ガヴァナンス論』、2014年、258-271頁。

〔その他〕

ホームページ

<http://tatsuoyamane.web.fc2.com/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

山根 達郎 (Tatsuo YAMANE)

広島大学・大学院国際協力研究科・准教授

研究者番号：90420512